

## News Release

2019年11月22日  
一般社団法人 日本電機工業会(JEMA)

### 2019年度 上期の電気機器の状況

一般社団法人 日本電機工業会(JEMA、会長：長榮周作)では、2019年度 上期の電気機器の状況を纏めましたので、以下の通りご報告致します。

#### 1. 概要

2019年度上期の世界経済は、米中貿易摩擦をはじめとする不透明な海外情勢の影響から全体としてやや減速傾向になりました。

わが国経済は、世界的な減速傾向を受け、成長の伸びが鈍化しました。今後も、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題等、不透明な経済情勢を抱えており、一層注視する必要があります。

このような中、重電機器、白物家電機器を合わせた電気機器の2019年度上期生産実績は、2兆6,840億円、前年同期比 96.2%となりました。

重電機器の国内生産については、米中貿易摩擦の影響も含む、中国を中心としたアジア設備投資の停滞が継続し、輸出を中心に産業用汎用電気機器が低調な動きとなりました。また、発電用原動機も石炭火力発電向け案件停滞の影響により前年同期を下回り、重電機器合計では1兆6,192億円、前年同期比94.3%と前年を下回りました。

白物家電機器の国内生産は、消費者の高付加価値製品への買い替え傾向は継続したものの、上期合計は、1兆648億円、前年同期比99.3%とやや前年同期を下回りました。

一方、国内出荷は、7月の天候不順により需要が一時的に落ち込んだものの、梅雨明けから気温が上昇し猛暑日が続いたこと、また10月からの消費税増税の影響もあり、1兆3,801億円、前年同期比105.5%と前年同期を上回りました。

【表1】電気機器の2019年度 上期の電気機器の状況

		2019年度 上期実績		(参考)2019年度 上期見通し (2019年3月時点)	
国内 生産	重電機器	16,192	94.3	金額 (億円)	前年同期比 (%)
	白物家電機器	10,648	99.3	17,098	99.5
	電気機器合計	26,840	96.2	11,049	103.0
	白物家電機器国内出荷	13,801	105.5	28,147	100.9
				13,860	105.9

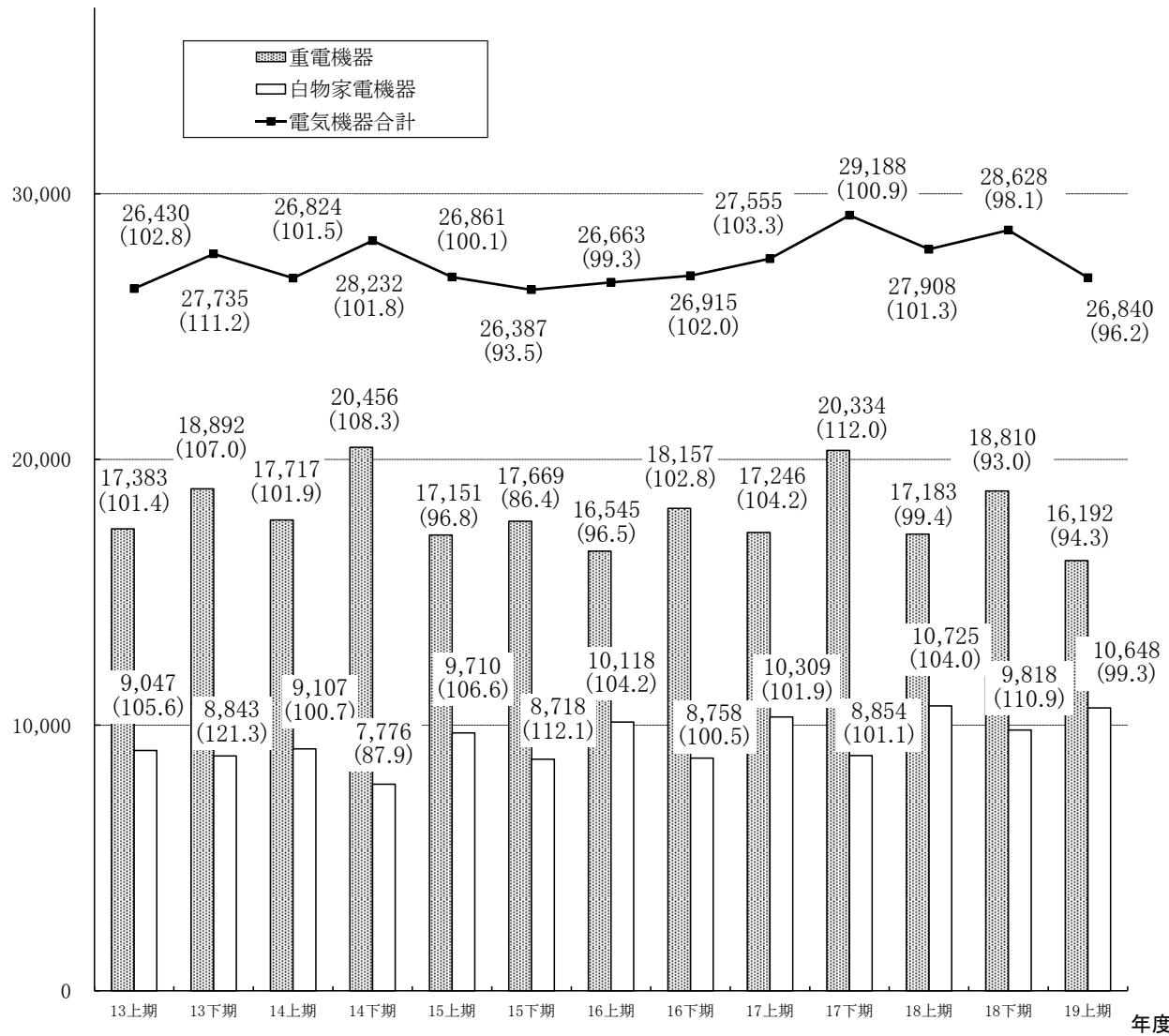
備考: 1:国内生産:2019年度上期実績は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2019年度上期見通しは、2019年3月時点でJEMAが策定したものです。

2:白物家電機器国内出荷の上期実績及び2019年3月時点の上期見通しは、  
いざれもJEMA統計、日本冷凍空調工業会統計(レームエアコン)をベースに、  
JEMAが策定したものです。

3:端数四捨五入のため、積み上げ値と合計が一致しない場合があります。

億円



備考:( )は前年同期比 %

出所: 経済産業省 生産動態統計

【図1】電気機器の半期別国内生産額推移

## 2. 重電機器分野

### (1) 上期国内生産実績の概要

発電用原動機では、ガスタービンは国内電力向けを中心に前年同期を上回ったものの、ボイラ、蒸気タービンが前年同期を大きく下回り、全体としても前年同期を下回りました。

回転電気機械では、交流発電機は輸出向け案件により前年同期を下回りました。また、交流電動機は国内設備投資の減速により、さらにサーボモータは米中貿易摩擦の影響もあり、中国を中心にアジア設備投資の停滞感が継続し、前年同期を下回りました。回転電気機械全体としては前年同期を下回りました。

静止電気機械器具では、変圧器は国内の製造業・非製造業向けが堅調であるものの、国内電力向けが低調であり前年度並みとなりました。また、電力変換装置を内訳別にみると、無停電電源装置(UPS)が国内のデータセンター需要により好調、太陽光向けパワーコンディショナが輸出を中心に上向きましたが、汎用インバータが中国を中心としたアジア設備投資の停滞感継続により前年度を下回りました。静止電気機械器具全体としては前年度を下回りました。

開閉制御装置では、密閉形ガス絶縁開閉装置は国内電力向け案件の増加により、閉鎖型配電装置は2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据えた大都市再開発の動きにより、前年同期を上回りました。一方、低圧開閉器・制御機器は内訳のプログラマブルコントローラにて中国を中心にアジア設備投資の停滞感が継続し、前年度を下回りました。開閉制御装置全体としては前年度並みとなりました。

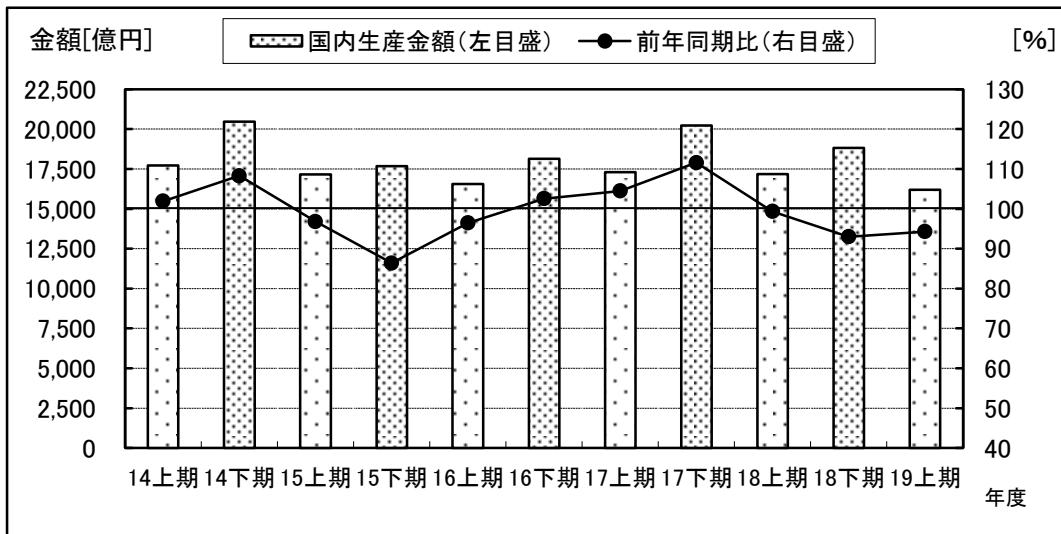
【表2】重電機器の2019年度 上期生産実績

	2019年度 上期実績		(参考)2019年度 上期見通し (2019年3月時点)	
	金額 (億円)	前年同期比 (%)	金額 (億円)	前年同期比 (%)
<b>発電用原動機</b>	1,798	82.4	2,319	106.3
うち、ボイラ	713	68.9	1,330	128.4
うち、蒸気タービン	194	38.9	315	63.2
うち、ガスタービン	891	137.5	675	104.1
<b>回転電気機械</b>	4,488	94.0	4,734	99.2
うち、交流発電機	422	95.1	396	89.8
うち、交流電動機	1,438	87.8	1,772	108.2
うち、サーボモータ	419	64.0	574	87.6
<b>静止電気機械器具</b>	3,227	91.3	3,388	95.8
うち、変圧器	1,132	99.9	1,114	98.1
うち、電力変換装置	1,690	83.4	1,896	93.6
<b>開閉制御装置</b>	6,679	99.9	6,656	99.5
うち、密閉形ガス絶縁開閉装置	333	119.0	295	105.4
うち、閉鎖型配電装置	981	104.4	963	102.1
うち、低圧開閉器・制御機器	2,393	94.2	2,490	98.0
<b>重電機器合計</b>	16,192	94.3	17,098	99.5

備考: 1. 国内生産: 2019年度上期実績は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2019年度上期見通しは、2019年3月時点でJEMAが策定したものです。

2. 端数四捨五入のため、積上げ値と合計が一致しない場合があります。



出所：経済産業省 生産動態統計

【図2】重電機器の半期別国内生産額推移

## (2) 下期の国内生産動向

発電用原動機は、引き続き石炭火力発電向け案件の停滞による影響が懸念されます。

また、回転電気機械、静止電気機械器具、開閉制御装置の分野を牽引している、中国を中心とするアジアでの設備投資については、工場の情報化や自動化への投資を背景に、引き続き多くの需要が見込まれます。ただし、米中貿易摩擦などの影響が長期化しており、こうした停滞感が下期中は継続する可能性が高く注視が必要です。

【参考】重電機器の2019年度 上期生産実績(生産分類別)

経済産業省 生産動態統計の品目を、JEMA が受注形態別に「受注生産品」と「産業用汎用電気機器」に分けて分類しました。

【表3】重電機器の2019年度 上期生産実績(生産分類別)

	2019 年度 上期実績		(参考)2019 年度 上期見通し (2019 年 3 月時点)
	金額 (億円)	前年同期比 (%)	
受注生産品 <sup>*1</sup>	6,281	96.7	
発電用原動機	1,798	82.4	
電力・一般産業用機器	4,483	103.9	
産業用汎用電気機器 <sup>*2</sup>	6,550	87.1	
その他の重電機器 <sup>*3</sup>	3,361	106.3	
重電機器合計	16,192	94.3	
			金額 (億円)
			前年同期比 (%)
	6,619	101.7	
	2,319	106.3	
	4,300	99.3	
	7,367	98.0	
	3,111	98.7	
	17,098	99.5	

\* 1 受注生産品： 発電用原動機(蒸気・ガスタービン等)、発電機、大容量変圧器等。

電力及び産業用(自動車、鉄鋼等)向けの電気設備。

\* 2 産業用汎用電気機器： 汎用インバータ、サーボモータ、プログラマブルコントローラ等。

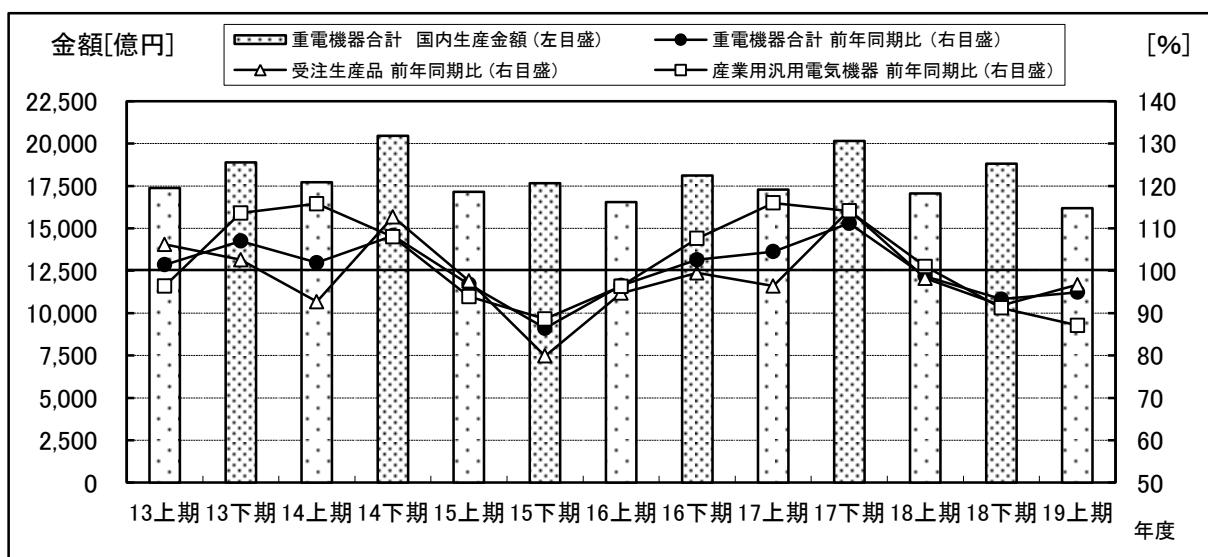
需要先が多岐にわたる、主に標準仕様で生産する量産品。流通は代理店経由が多い。

\* 3 その他の重電機器： 機器としては重電機器受注生産品または産業用汎用電気機器であるが、データとして分類できない機器。

備考 1: 国内生産: 2019 年度上期実績は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2019年度上期見通しは、2019年3月時点でJEMAが策定したものです。

2: 端数四捨五入のため、積上げ値と合計が一致しない場合があります。



出所: 経済産業省 生産動態統計

【図3】重電機器の半期別国内生産額推移(生産分類別)

### 3. 白物家電機器分野

#### 3. 1 国内出荷の状況

##### (1) 上期国内出荷実績の概要

白物家電機器の上期国内出荷は、7月の天候不順により、一時的な減少がありました。梅雨明けから気温が上昇し猛暑日が続いたこと、また主要製品において10月からの消費税増税の影響による増加もあり、上期の白物家電機器合計の出荷額は1兆3,801億円、前年同期比105.5%となり、過去10年では最も高い出荷金額となりました。

製品別でみると、ルームエアコンは昨年の上期は猛暑により出荷水準が高かったことから当初見通し(2019年3月時点)では、前年同期を下回るとみておりましたが、7月の天候不順で一時的に減少したものの、一世帯あたりの設置台数の増加もあり、需要は堅調でした。また、電気洗濯機はまとめ洗い・大物洗いに対する消費者ニーズにより8.0kg以上の大型クラスが人気で、中でも高付加価値製品である洗濯乾燥機が好調でした。また、ジャー炊飯器もインバウンド需要の減少後、市場は横ばいで推移していますが、高機能製品の市場トレンドは継続しています。一方、食品のまとめ買いに対応した大容量冷蔵庫は、7月の天候不順の影響もあり、伸び悩みました。また、電気掃除機もたて形(スティックタイプ)は好調を維持していますが、キャニスター形の落ち込みもあり、全体では前年同期を下回りました。

消費税増税前の駆け込み需要の影響は、製品により増減がありましたが、前回2013年度は、直近3か月(2014年1~3月)の各月ともに駆け込み需要による増加が顕著だったのに対し、今回の直近3か月をみると、7月は天候不順で減少、8月、9月は増加で、特に駆け込み需要が顕著であったのは9月単月でした。

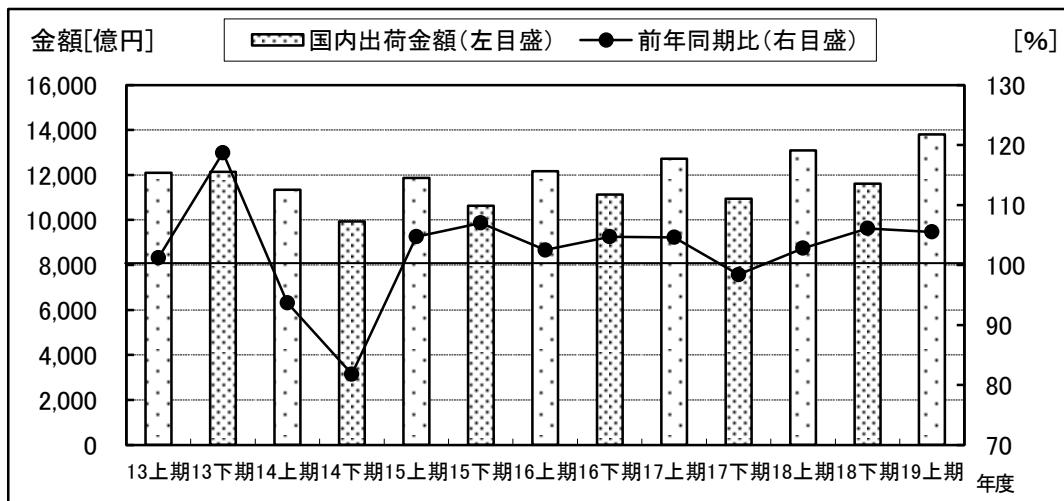
【表4】白物家電機器の2019年度上期国内出荷実績

	2019年度 上期実績		(参考)2019年度 (2019年3月時点)	
	金額 (億円)	前年同期比 (%)	上期見通し	年度見通し
ルームエアコン	5,154	104.6	4,818	97.8
電気冷蔵庫	2,569	102.0	2,949	117.1
電気洗濯機	1,990	116.8	1,939	113.8
うち、全自洗8.0kg以上	1,538	120.0	—	—
電気掃除機	460	96.2	531	110.0
うち、たて形(スティックタイプ)	228	125.2	—	—
ジャー炊飯器*	547	107.7	531	104.6
その他(上記5品目以外)	3,081	104.4	3,092	104.8
白物家電機器合計	13,801	105.5	13,860	105.9
				24,123
				98.9

\*ジャー炊飯器: 保温機能(ジャー)がついた電気炊飯器。

備考1: 国内出荷の上期実績及び2019年3月時点の上期見通しは、いずれもJEMA統計、日本冷凍空調工業会統計(ルームエアコン)をベースに、JEMAが策定したものです。

2: 端数四捨五入のため、積上げ値と合計値が一致しない場合があります。



出所：日本電機工業会統計、日本冷凍空調工業会統計(ルームエアコン)

【図4】白物家電機器の半期別国内出荷額推移

## (2) 下期の国内出荷動向

2019年3月時点の下期見通しでは、昨年下期の水準が高かったことと、さらに駆け込み需要の反動減などにより減少を見込んでおりました。そうした中、下期は、上期に駆け込み需要により増加したルームエアコン、電気洗濯機、ジャー炊飯器などの動きとともに、やや弱い傾向にあると思われる景気動向、消費動向などに注視が必要とみています。

なお、今年3月に発表した当初見通しでは、2019年度前年度比で98.9%とみており、年度を通してみると今回の消費税増税の影響は、軽微なものと見ておりました。

下期はある程度の反動減が予想されますが、2019年度は、前年度をやや下回る程度とみております。

### 3. 2 国内生産の状況

#### (1) 上期国内生産実績の概要

白物家電機器の国内生産は、高付加価値製品を中心に生産しておりますが、大容量冷蔵庫の伸び悩みなどが全体を押し下げ、白物家電機器全体では、前年同期をやや下回りました。

製品別でみると、主要製品では電気洗濯機が前年同期を上回りましたが、ルームエアコン、電気冷蔵庫、電気掃除機、電気がまは、前年同期を下回りました。上期の白物家電機器合計の生産額は1兆648億円、前年同期比99.3%となりましたが、昨年度の上期に次ぐ高い水準を維持しました。

【表5】白物家電機器の2019年度上期国内生産実績

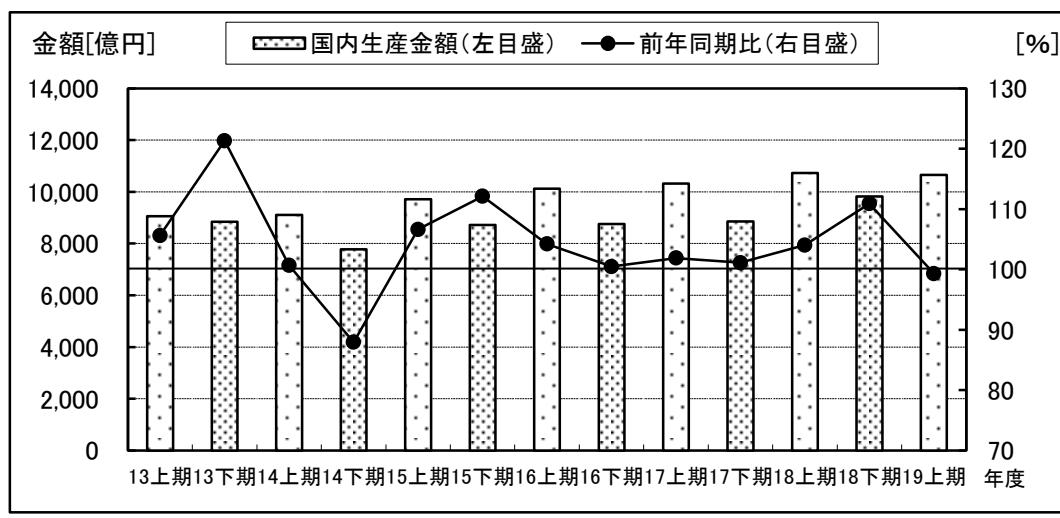
	2019年度 上期実績		(参考)2019年度 (2019年3月時点)	
	金額 (億円)	前年同期比 (%)	上期見通し	年度見通し
ルームエアコン	3,464	98.1	3,564	100.9
電気冷蔵庫	1,284	81.2	1,678	106.1
電気洗濯機	398	103.7	403	105.2
電気掃除機	150	97.5	163	105.7
電気がま*	330	95.7	366	106.2
その他(上記5品目以外)	5,022	106.2	4,875	103.3
白物家電機器合計	10,648	99.3	11,049	103.0
				18,958
				96.0

\*電気がま:ジャー機能(保温機能)のないものも含む。

備考: 1:国内生産:2019年度上期実績は、経済産業省 生産動態統計を適用しました。

2019年度上期見通しは、2019年3月時点でJEMAが策定したものです。

2:端数四捨五入のため、積上げ値と合計値が一致しない場合があります。



出所: 経済産業省 生産動態統計

【図5】白物家電機器の半期別国内生産額推移

#### (2) 下期の国内生産動向

白物家電機器は、国内で高付加価値製品を中心に生産しております。また、国内出荷と連動した動きのため、下期は昨年下期の水準が高かったことと、さらに駆け込み需要の反動減などにより減少を見込んでおります。

なお、年度を通してみると、国内出荷と同様に前年度をやや下回る程度とみております。

以上

**本資料に関する弊会お問い合わせ先**

**統計関係**

〔重電機器〕 TEL:03-3556-5885 FAX:03-3556-5890

重電部(調査統計課 市村・角田・細田)

〔白物家電機器〕 TEL:03-3556-5887 FAX:03-3556-5891

家電部(調査統計課 宮内・高橋)

その他 TEL:03-3556-5882 FAX:03-3556-5891

企画部(広報室 中村・熊田)

URL : <http://www.jema-net.or.jp/>